

2026年度一般社団法人常総青年会議所

理事長所信

一般社団法人常総青年会議所

第46代理事長 高島 伸明

-SHIDORYOKU-

志動力

～志ある動きこそが力なり～

【はじめに】

今の日本は、皆様から見てどのように映っているだろうか。何を感じるだろうか。昨今の世界情勢によるさまざまな影響や、円安・物価高の影響、政治の問題など、多くの人々が不安を抱えて生きているのではないだろうか。あるいは、そうしたことに関心もなく、ただ日々を過ごしているのか。いつから日本はこんな国になってしまったのだろうか。たくさんの不平不満も聞こえてくる。しかし、その様に国や人を批判したり、誰かのせいにしたり、不平不満を口にしている自分自身は、あなたたち自身は本当に立派と言えるのだろうか。いま一度自分自身に問いかけて欲しい。

志もなく、誰かを想うこともなく、自分のことしか考えられない人たちばかりで、日本はいつしか心まで貧しくなっている人たちが増え、その結果として国力が低下してしまっているのではないかと感じます。

私は高校を卒業後、2年間カナダに留学していた経験がございます。その時、身に染みて感じたのは「いかに日本が恵まれた豊かな国であるか」ということでした。

カナダもとても素晴らしい国ですが、当時日本を離れて生活したことで、私は日本を客観的にみることができ、「日本の方が確実にいい国だ」と確信したことを今でも鮮明に覚えております。

四季折々、海や山に囲まれた自然豊かな環境、美味しい食材が豊富で、素晴らしい伝統文化などがたくさんある一方で、どこへ行っても不便のない発展した社会、多くの人がル

ールや時間などを、当たり前のように守れるその国民性など、挙げればきりがありません。

2011年3月、東日本大震災の発生後、あのような過酷な状況の中でも、きちんと並んで列をつくり、支援物資を受け取るその日本人の国民性が、どれほど世界から称賛を浴びたことか。当時、私は国外からその「JAPAN PRIDE（日本人らしさ）」を目の当たりにしました。それから十数年が経ち、今の日本はどうだろうか。だんだんと日本らしさ、日本人らしさも失われつつあるように感じます。

今から77年前の1949年、終戦からわずか4年後のまだまだ戦後焼け野原の中、自らも食うや食わずの時代に「新日本の再建は我々青年の仕事である」そう高らかに誓い立ち上がったのが、我々青年会議所の先達たちです。こんな時代だからこそ、そのDNAを受け継ぐ私たちが、もう一度常に志をたてて動き、本当の同志となりその力を發揮していかなければなりません。個の志の集合体の動きこそ大きな力なり。運動体であるJCでは、その常に訪れる「動」に「志」をしっかりと掲げることによって、それは大きな「力」になると思っております。

心から日本をよくしたい。必ずよくしよう。JCからこの国の未来を想える日本人をつくり、育てていこう。

こんな今だからこそ、我々JAYCEEが日本の底力を魅せるときだ。

【志で繋がる仲間づくり】

私たちの活動エリアである常総市は人口約60,000人、そのうち私たち青年会議所の年齢制限内と同じ20歳～40歳の人口が約17,000人、つくばみらい市は人口約53,000人対し、同年代の人口は約12,000人の方が住む地域であります。

しかし、私たちは45年の歴史の中で最も会員数が多かった時が79名に対し、本年の旗手人数はわずか21名と、非常に少ないので現状です。2007年以降は一度も30名を超えたことがありません。

地域にとってより良い運動や事業を構築するためにはもちろん、青年会議所が掲げる、「明るい豊かな社会の実現」のためにも、同じ志を持ち活動を共にできる同志たちが一人でも多く必要です。

そんな多くの同志を生み出すきっかけとなる、この会員拡大活動こそが日本を、地域をよくする最大の手法だと考えます。

2026年度は会員拡大で「日本一」を目指し、今までで一番活力のある時代への1歩を踏み出します。

青年会議所が設立されて依頼、最も継続されている、最大の運動でもあるこの会員拡大で日本一をとることは、私自身の確固たる自信に繋がることはもちろん、メンバーみんなにとってもJC活動への自信と、自分の人生の自信にも繋がることでしょう。

そして常総という名が広まることは、何よりも地域活性化のきっかけの1つとなることは

間違いないと確信しております。

メンバー全員で必ず日本一を獲りましょう。

【志の溢れるまちづくり】

私たち青年会議所は運動体である。活動地域における社会課題とは何か。地域に最も利益をもたらすものは何か。「人類への奉仕が人生最大の使命である」という信条のもと、常に住み暮らすまちや地域と真剣に向き合わなければなりません。

全ての人に平等に与えられた限られた時間の中で、誰かのため、地域のために時間を使う事はそうたやすく簡単なことではありません。そこには多くの葛藤や修練が待ち構えていることでしょう。

しかし、そんな修練を乗り越えた先には、共に挑み、手を取り支え合い、多くの苦難や困難を乗り越えてきた同志たちとのかけがえのない友情が芽生えるものです。

2022年夏、新型コロナウィルスがまだ猛威をふるっていたころ、常総市では50年以上の歴史を誇る「常総きぬ川花火大会」がその年も開催できませんでした。

3年連続の中止を危惧した当時の理事長は、「この地域の元気を自分たちの力で取り戻したい」との想いから、新しい花火大会である「常総新花火」の開催を決意しました。

許された準備期間はたったの3ヶ月。「そんなことは無理だ。無謀な挑戦すぎる。」たくさんの方々の不安な声や否定的な意見が飛び交う中、志を立て、決意をし、自らを奮い立たせ、ただひたすら準備に励むのみでした。たった20人で、たったの3ヶ月で、約6,000万もの費用がかかった事業を開催し、成功させました。

たくさんの人たちに感動を与え、地域益をもたらし、何よりもそんな果敢な挑戦をし、成功することによって、LOMメンバーが一丸となり、メンバー一人ひとりに自信を与え、最大のLOM益をもたらしたことを今でも鮮明に覚えております。

「本気でやればできないことなんてない」まさにそれを証明した事業でした。

人々に感動と勇気を与え、地域益をもたらし、LOM益をもたらす。そんな事業をなんとしてでももう一度やりたい。メンバー一丸となり、地域を巻き込み、4年ぶりの「常総新花火」を必ず開催したいと思います。

住み暮らす人々に感動と勇気を与えられる。そんな大きな志をもってまちづくりに挑戦し、「自分たちの住み暮らす地域やその未来は自らの手で創り守る」という志を持つ人たちが溢れるまちづくりを目指します。

【志の高きひとづくり】

青年会議所が掲げる JCI Mission である我々の使命に「Leadership Development Opportunities（リーダーシップの開発と成長の機会）」と言う言葉があります。青年が社会により良い変化をもたらすための力、つまり運動を起こす事ができるようになるために

「リーダーシップ」の開発と「成長の機会」を提供することを「使命」として掲げているわけです。これはメンバーがその機会を得るために組織や役職を通して提供したり、されたりするのはもちろんのこと、未来の仲間たちに、そして、これから将来を担う次世代の子供達にもその「成長の機会」を提供していかなければならぬと思っております。

常総青年会議所では唯一の継続事業である今年で36回目になる歴史と伝統を誇る「わんぱく相撲常総場所」があります。相撲は、今の子供たちにとって、少子高齢化の影響や多様なスポーツの台頭により、日本の国技でもあるに関わらず、決して人気の高いスポーツとは言えないのが現状です。1500年もの歴史を紡いできたこの歴史ある国技を通して、子供たちが日本に誇りをもち、リーダーシップを取れる人間になるための、強い精神を得る機会を提供してまいります。

そして、その機会を通して何よりも私たち自身が1番成長していかなければなりません。子供たちの真っ直ぐさに負けずに、私たちもメンバー一人ひとりが志の高きリーダーになれるよう、リーダーシップに磨きをかけていきたいと思います。

【むすびに】

「こんな時代にそんなことやっていられるかよ」我々青年会議所は世間からたくさん厳しい声を寄せられる時があります。「忙しい団体」「お酒をたくさん飲む団体」そんなマイナスなイメージだけが一人あるきしている。そんな事が多々あり、かつての私自身も、そう思っていた一人でした。

しかし、入会してみたら、この団体の人たちはいつもどんな時も「誰かのために」動いています。恥ずかしいことをしているでしょうか。誰かに後ろ指刺されるようなことをしているでしょうか。していないはずです。

1円の利益にもならないのに、利他の精神をもち、いつも誰かのために動いているではないでしょうか。

「人になにかを与えることで、人生はより豊かになる」メンバーの皆様には自信と誇りを持って活動していただきたいと心から思います。

それでも挫けそうになったり、全てが嫌になったりするような辛いことがたくさん待ち受けているかもしれません。

そんな時は、今年度のスローガンに掲げた「志動力」～志ある動きこそが力なり～を思い出して頂きたいです。

強い志を立てることは、いかなる困難な状況でも、前に進み努力を続ける意欲が湧き、成長の原動力となるはずです。そして、常に高く強い志を掲げ動くことで、自己の限界を超えるとする挑戦する心を育み、継続的な自己成長を促します。

運動体である我々JCに常に訪れる「動」にそれぞれの個が常に「志」を掲げ動き続けることで、それらが合わさり本当の同志となった時、とてもなく大きな「力」を生み出すことでしょう。

志の原動力である「志動力」を掲げ、メンバー一同手を取り合い、足並みを揃えて運動を展開し、邁進してまいります。

いつも誰かのために。そして、誇り高き日本のために。